



<取材のお願い>

2023年3月1日

秋田大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

マレーシアの学生が秋田大学で航空機電動化の最先端研究を学ぶ ～滞在中に雪国秋田の魅力と文化を知る機会も～

秋田大学では3月5日（日）～3月10日（金）、マレーシア工科大学から大学生10名、教員1名、計11名を招き、科学技術体験交流プログラムを行います。来日するのは、いずれも学内で選抜をされた優秀な学生たちです。

コロナ禍で移動が制限されたことにより、二酸化炭素排出量の大幅な削減がもたらされました。経済を維持しつつカーボンニュートラルな未来を実現する抜本的な解決策の一つとして、ジェット旅客機分野における電動化を見据えた開発が鍵になっています。そのような中、秋田大学は秋田県、秋田県立大学と共に、廃校となった小学校に「電動化システム共同研究センター」を設立して、航空機電動化に関する最先端の研究に取り組んでいます。

本プログラムでは招へい学生が、電動化システム共同研究センターに設置されている実機サイズの設備を見学し、さらに、航空機の装備品分野の電動化で世界をリードしている株式会社IHI（東京）とオンラインで結んで講義を受講します。また、秋田県横手市の株式会社アスターでは、航空機電動化に必要な最先端のモーター工場を視察します。秋田で進められている航空機電動化研究について理解を深め、最新動向を学ぶことが目的です。さらに、本学の学部生や大学院生と意見交換をする時間も多く設けました。成長著しいマレーシアの学生から刺激を受け、本学の学生たちにとっても、グローバル化や将来のキャリアパスを先取りするチャンスとなることが期待できます。

本学では伝統的にマレーシアからの留学生が多く在籍していますが、それは、彼らによる口コミの効果が高いと推測できます。そこで、さらなる交流の深化を目指して雪国秋田の魅力を最大限に紹介することも本プログラムの狙いの一つとしました。AIA（公益財団法人秋田県国際交流協会）の協力のもと、古くから続く秋田の地方文化を紹介し、田沢湖や乳頭温泉郷を訪問します。

本プログラムは科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。



* 「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、IHI のオンライン講義、電動化システム共同研究センター、アスターラボ施設見学の様子、AIA の講師による雪国秋田についての講演、本学学生との交流の様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の足立高弘教授へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

【実施内容】

●IHI オンラインによる講義「電動化最新動向について」 ●秋田大学大学院生による発表、秋田大学研究室見学、 学生との交流 ●電動化システム共同研究センター施設見学、アスターラボ見学 ●AIA 紹介の講師による雪国秋田についての講演

【研修日程概要】

3月5日（日）	午後	秋田着、オリエンテーション、意見交換会
3月6日（月）	午前	IHI オンライン講義 電動化の最新動向について
	午後	秋田大学大学院生による発表、学生との交流
3月7日（火）	午前	電動化システム共同研究センター施設見学
	午後	アスターラボ施設見学（航空機電動化に必要な最先端モーターの工場見学）
3月8日（水）	午前	AIA 紹介の講師による 雪国秋田についての講演
	午後	秋田大学研究室見学
3月9日（木）	午前	田沢湖
	午後	乳頭温泉郷
3月10日（金）	午後	帰国

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

秋田大学理工学研究科附属クロスオーバー教育創成センター

担当：足立高弘

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

（担当：田中(禎)、太田）